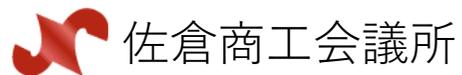


Sakura

佐倉市の早期景気観測調査

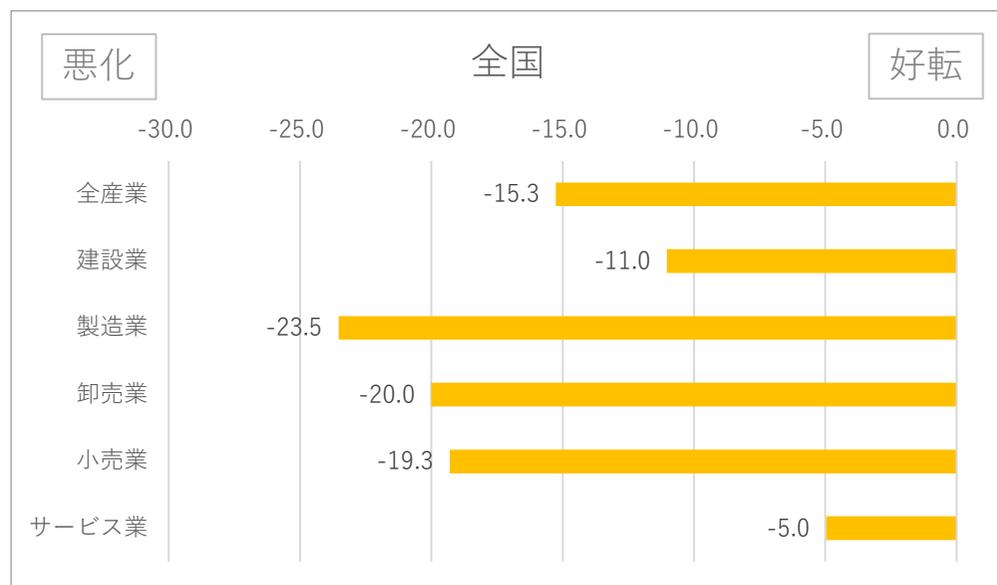
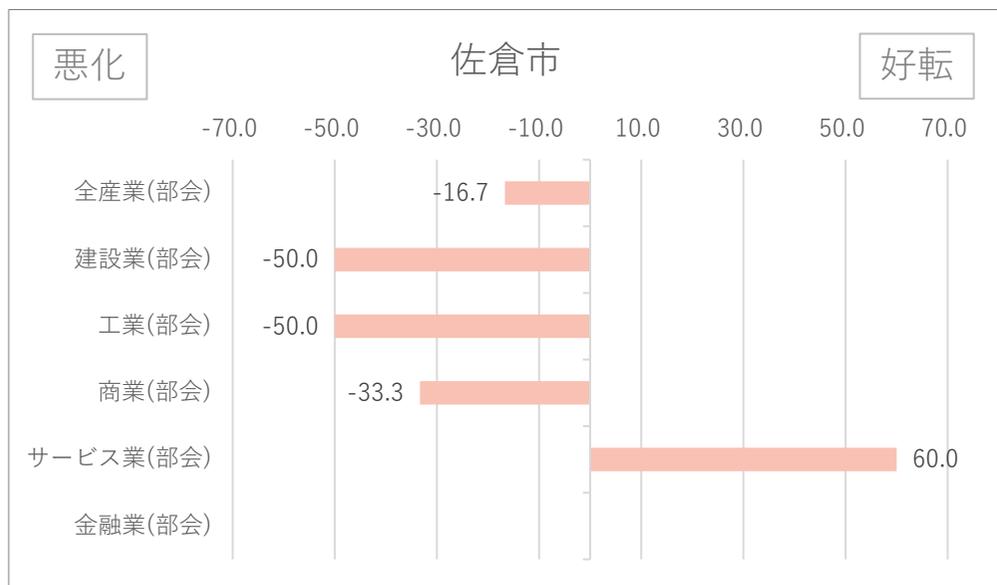
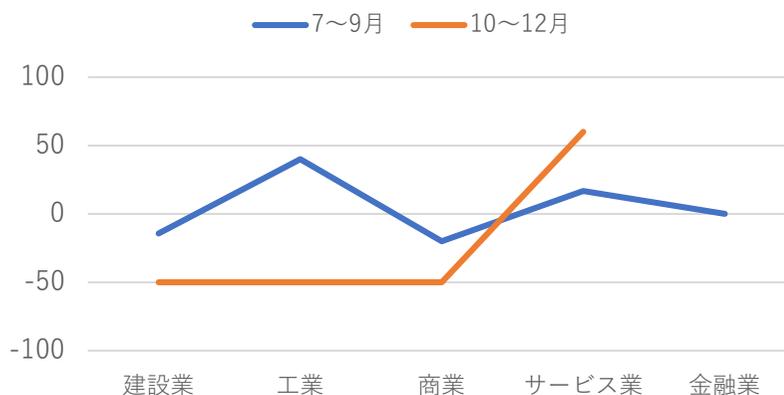
令和6年度第2回(令和6年7～9月)の結果報告



佐倉市における全産業の業況見通しは、前回調査における7.8（全国比プラス21.7ポイント）から一転し、▲16.7となった。消費者の節約志向の継続が全体を下押し、全国調査も同様の傾向であった。サービス業(部会)だけはプラスだが、多くはマイナスに転じた。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、サービス業(部会)が単独で好転を見込む一方、ほぼ全産業(部会)で悪化の見通しとなった。原材料や輸送費等のコスト増が続く経営環境の中、企業経営の足かせは多い。

■3ヶ月後の先行き見通し

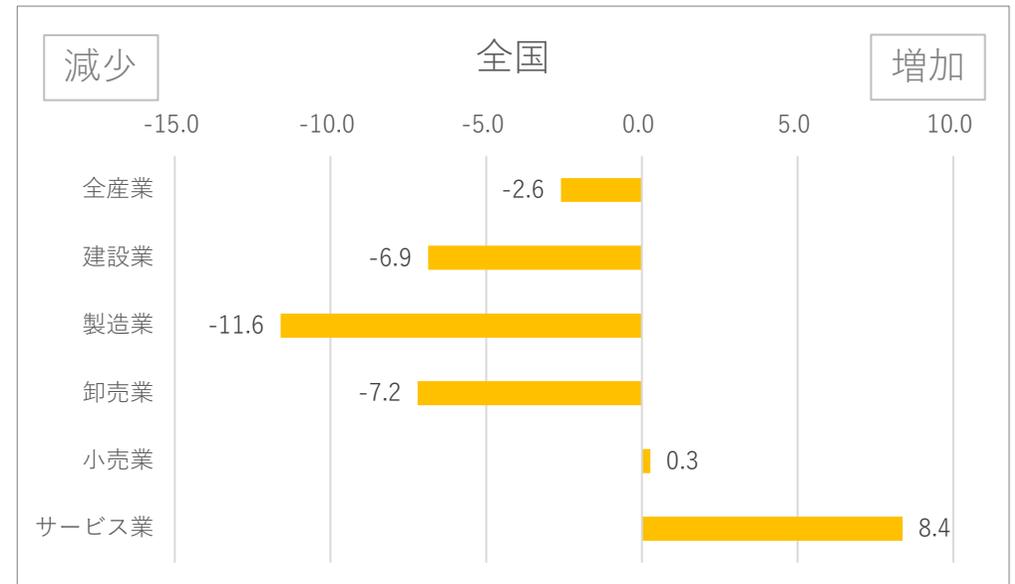
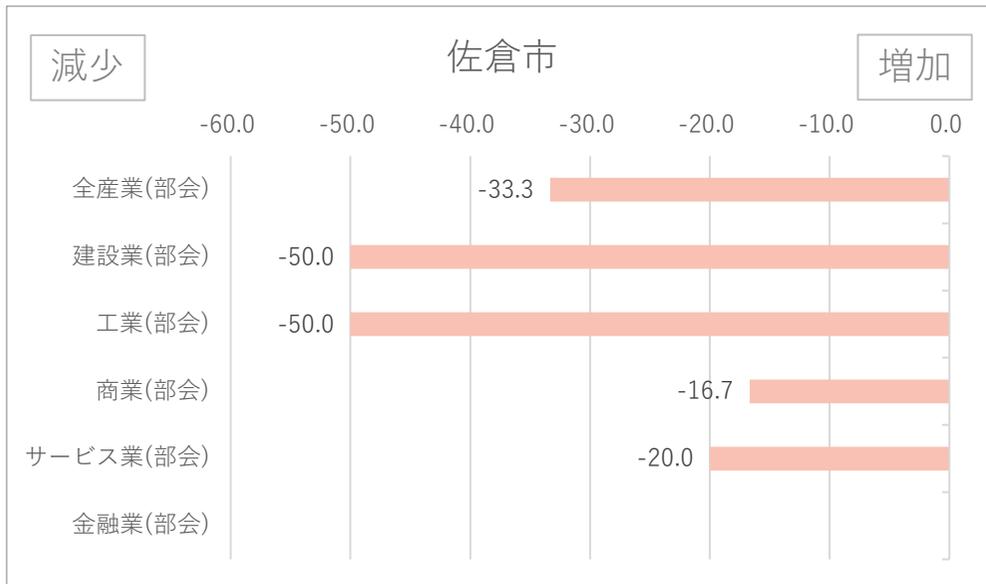
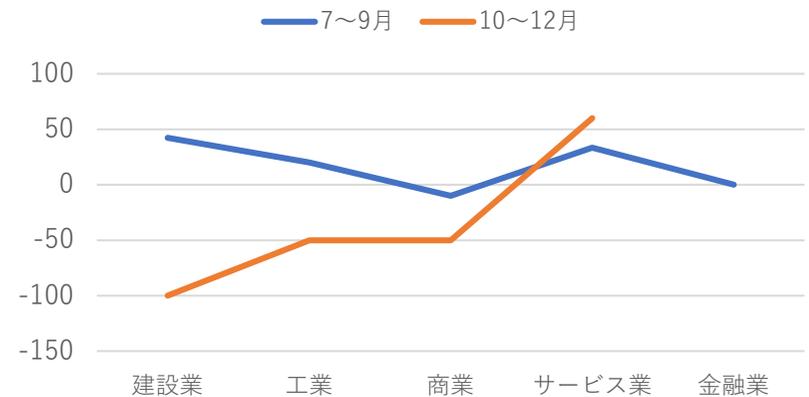


※日本商工会議所LOBO調査より

全産業の売上高見通しは、▲33.3（全国は▲2.6）と前回調査に増して厳しい状況となった。建設業(部会)および工業(部会)は横這いからマイナスに転じ、サービス業(部会)もプラスからマイナスへと転じた結果、全産業で大幅なマイナスとなった。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、サービス業(部会)が増加を見込む一方で、建設業(部会)、工業(部会)など、こちらも全産業でさらなる減少となり、厳しい状況の継続が見込まれる。

■3ヶ月後の先行き見通し

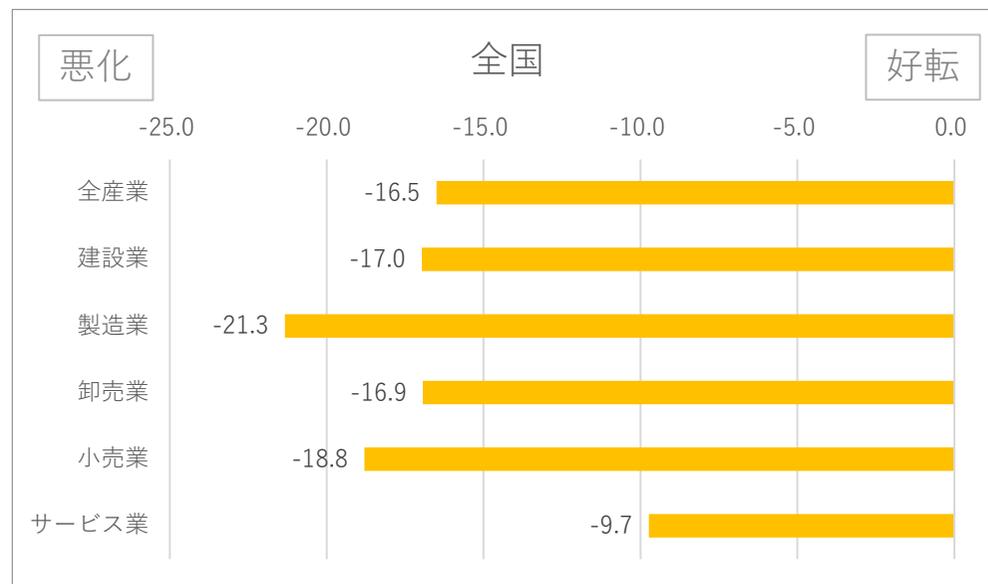
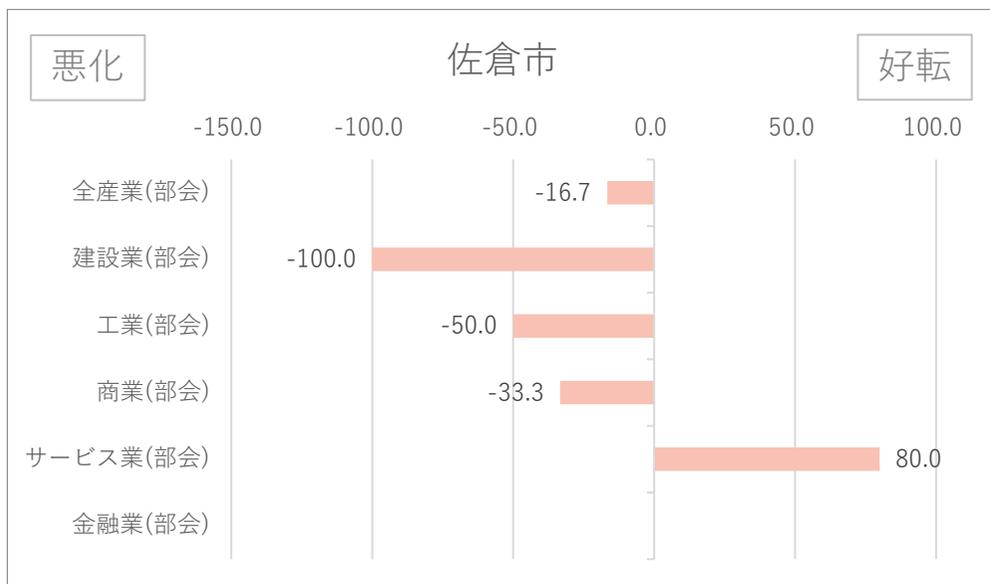
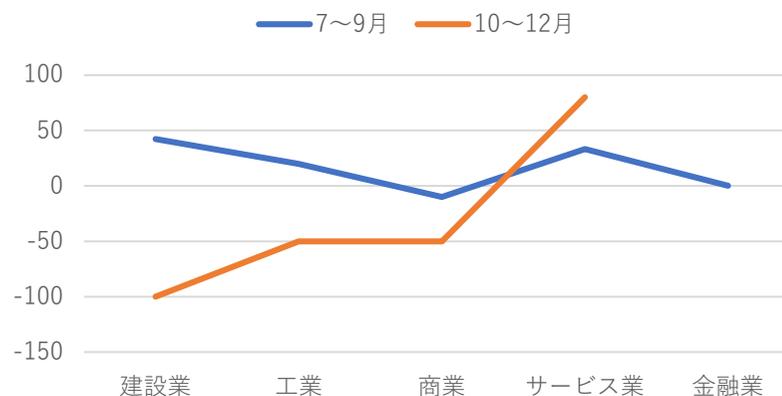


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の採算見通しは、前回調査の▲21.5からやや改善し▲16.7となった。全国では、引き続き全産業でマイナスとなっている。全国調査では全産業で厳しい状況となっており、サービス業も佐倉市の結果と異なりマイナスとなっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、業況や売上高と同様にサービス業(部会)でやや好転の見通しがあるものの、全産業で大幅な悪化が見込まれており、先行きを懸念する声が引き続き聞かれている。

■3ヶ月後の先行き見通し

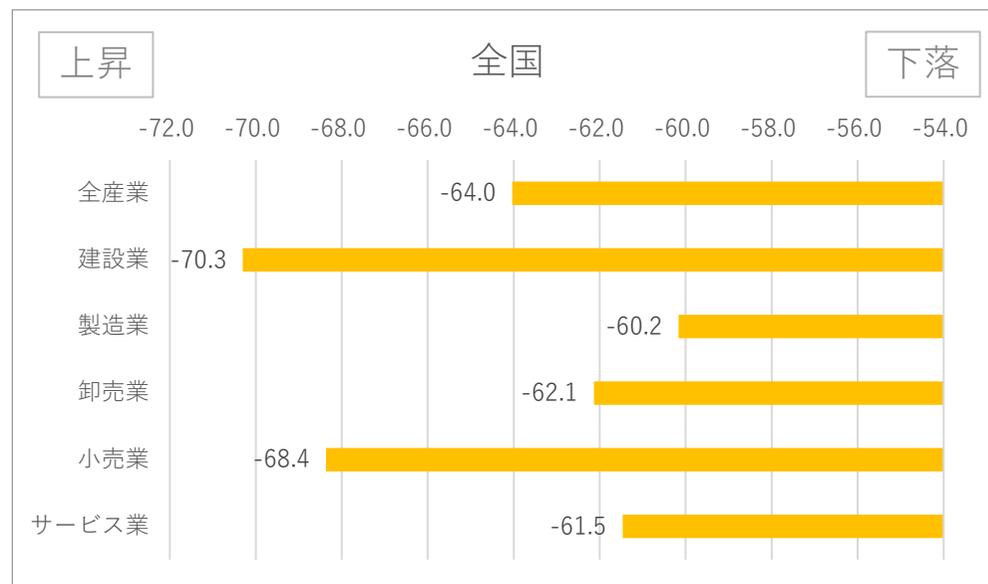
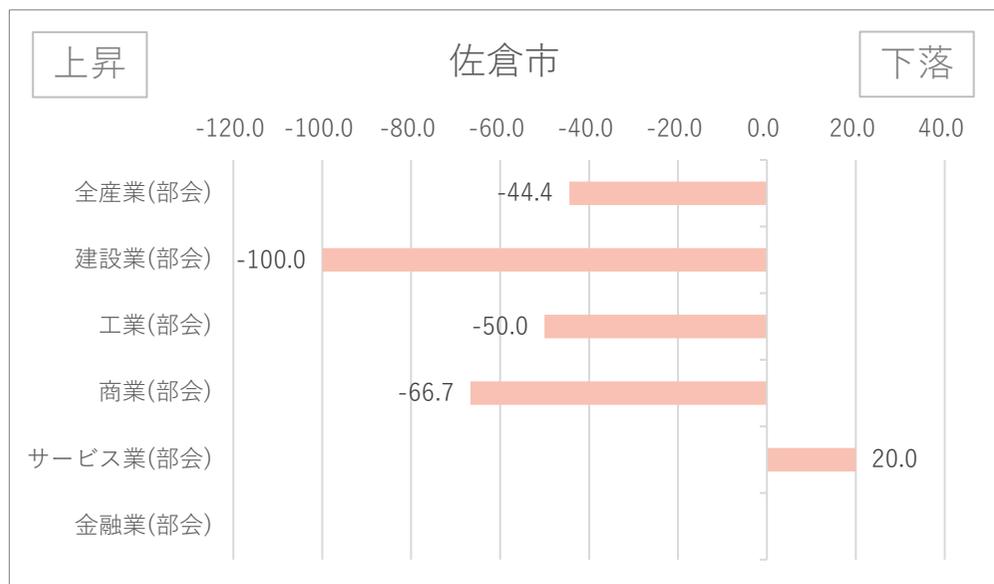
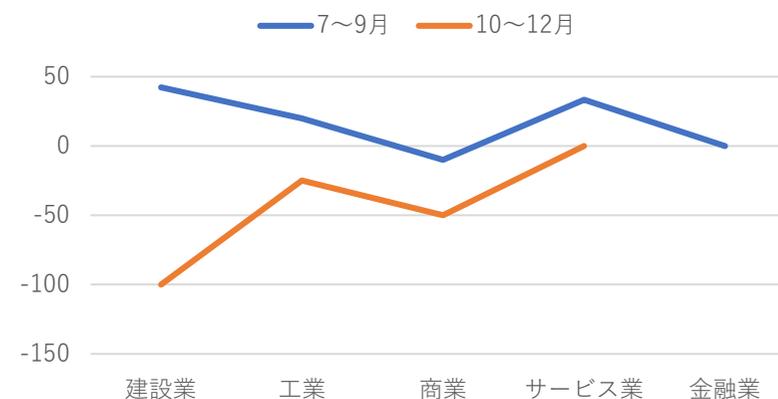


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の仕入れ単価は、サービス業(部会)を除いてほぼ全産業(部会)で単価の上昇という結果となった。特に建設業(部会)は厳しい結果となっている。全国調査も同様であり、建設業を筆頭として全産業で大幅な上昇を見込んでいる。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、ほぼ全ての産業(部会)で上昇の見通しとなっており、特に建設業(部会)では、足元同様に先行きも見通しが厳しくなっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

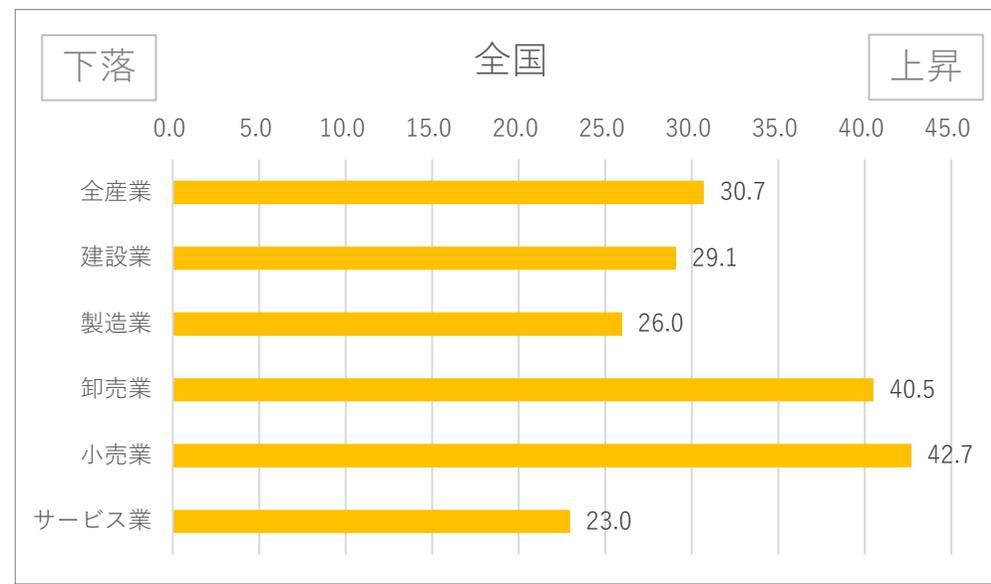
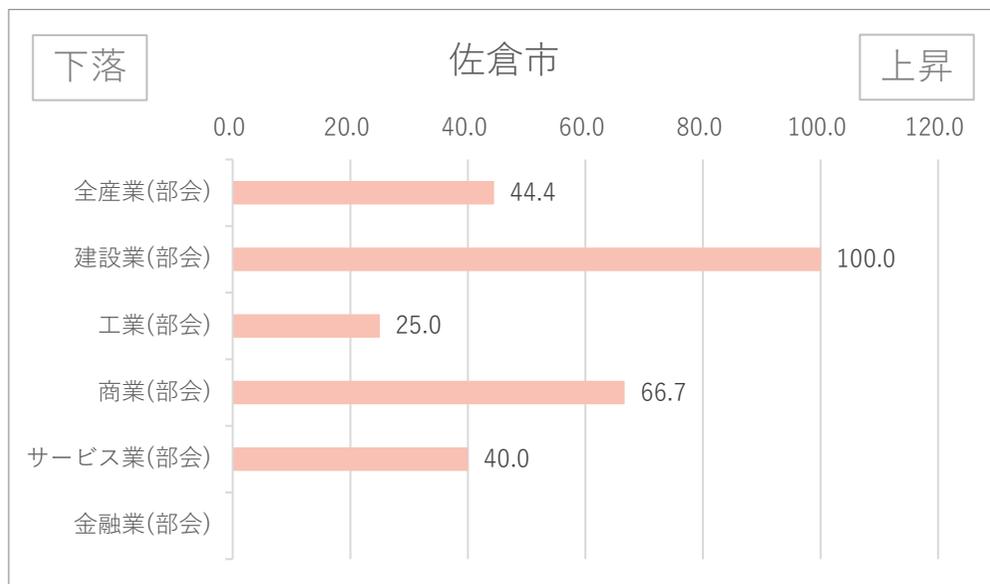
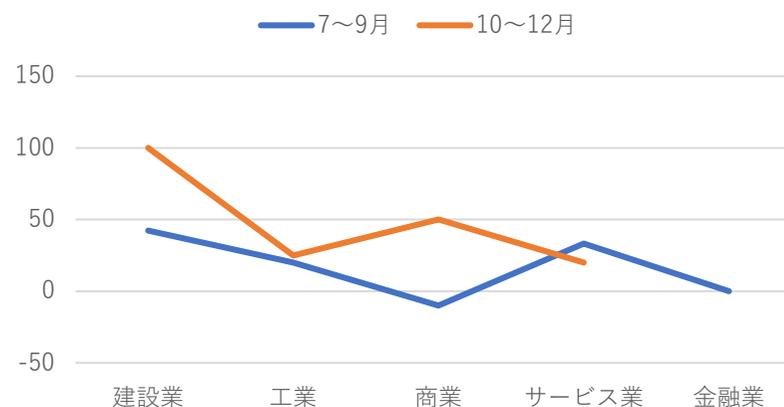


※日本商工会議所LOBO調査より

販売価格の見通しは、大きく上昇を見込む建設業(部会)がけん引するかたちで全産業で44.4とプラス幅を伸ばす結果となった。全国調査では、卸売業と小売業がけん引するかたちではあるが、同様に全産業で上昇となっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しも部会別に見ると今回調査と同様となっており、サービス業(部会)を除いて、さらなる上昇を見込む結果となっている。

■3ヶ月後の先行き見通し

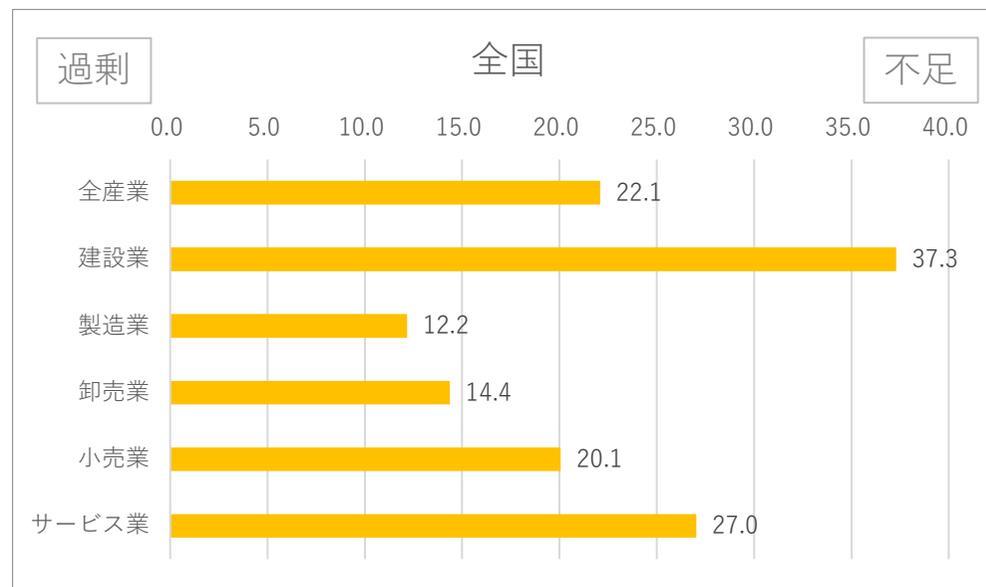
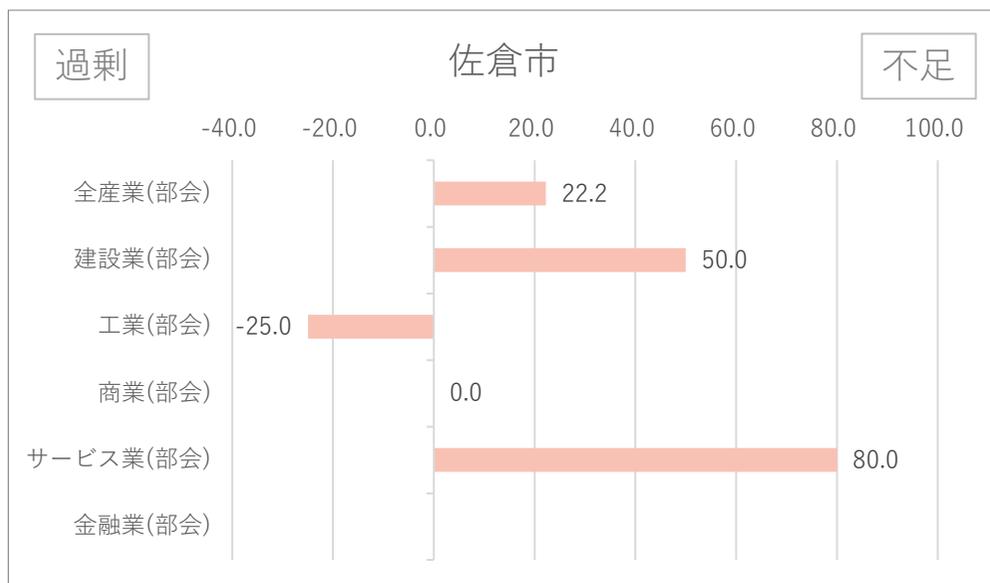
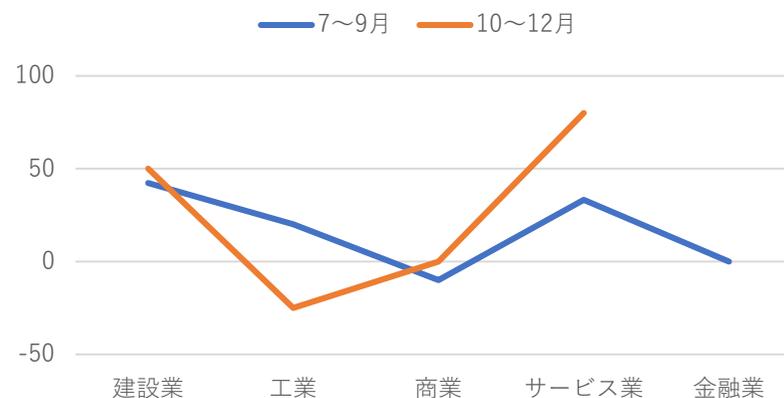


※日本商工会議所LOBO調査より

全産業の従業員の状況は、全国調査22.1と同様に22.2ポイントとなり、不足感が継続する結果となった。厳しい業況が続く中、防衛的な賃上げとのせめぎ合いが垣間見える。佐倉市では工業(部会)が過剰に転じ、商業(部会)で横這いとなっている。

また、3ヶ月後の先行き見通しは、今回の調査で過剰と回答された工業(部会)を除いて、ほぼ全ての産業(部会)で不足感が強まると見込まれる結果となった。

■3ヶ月後の先行き見通し

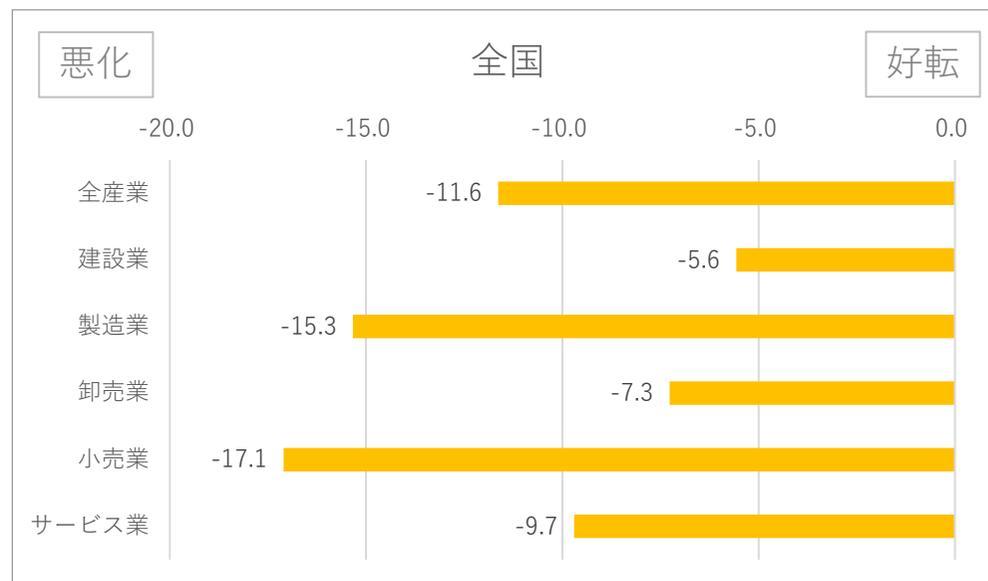
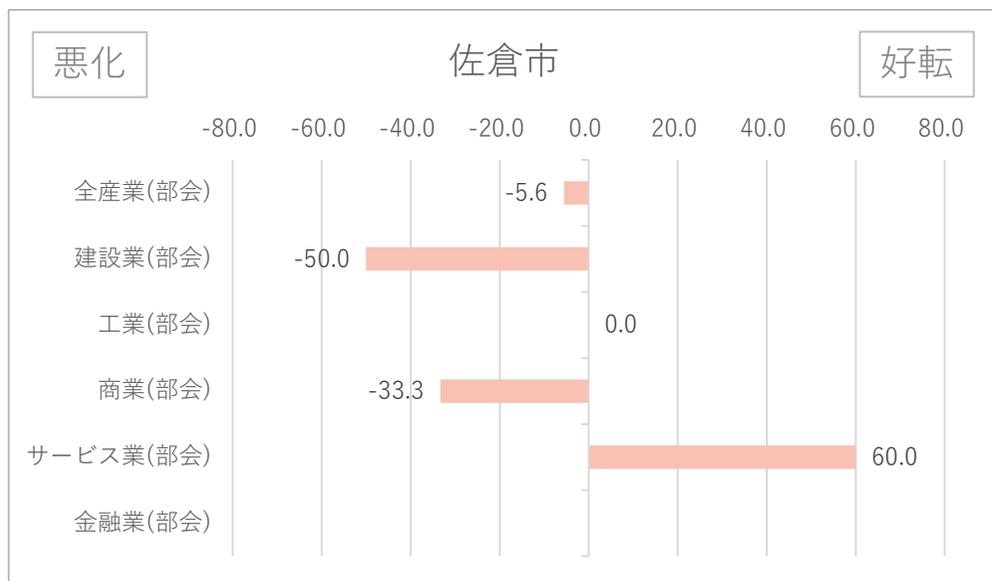
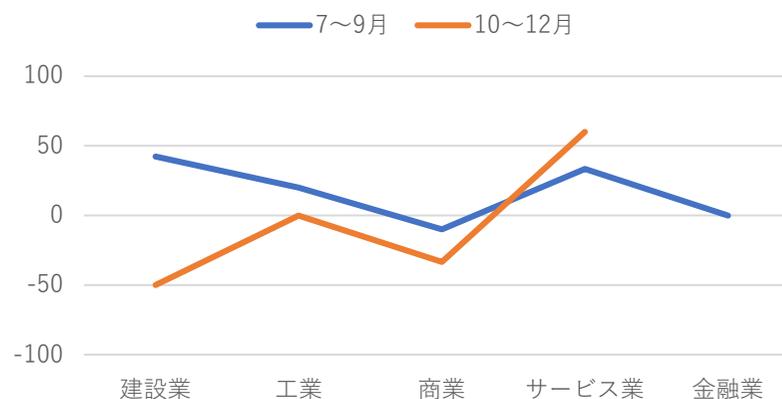


※日本商工会議所LOBO調査より

佐倉市における全産業の資金繰り状況は、おおむね好転となった前回調査の14.2から一転し、▲5.6の悪化となった。工業(部会)で横這い、サービス業(部会)で好転を伸ばした一方で、建設業(部会)や商業(部会)は大幅な悪化となっており、先行きは厳しい。

また、3ヶ月後の先行き見通しでも、サービス業(部会)を除いてほぼ全ての産業(部会)でさらなる悪化が見込まれている。経営課題は長期化しており、先行きには力強さを欠いている。

■3ヶ月後の先行き見通し



※日本商工会議所LOBO調査より

部会	コメント内容
建設業部会	
工業部会	<ul style="list-style-type: none">・受注予定工事の遅延が多く見られ売上、消化、配員計画のズレが懸念される。・円安傾向、エネルギー高傾向は変わらず仕入れ価格は高くなる傾向。売り上げは前年と変わらず、経費高により収益は減少傾向にあるが経費削減により収益を維持する方針。
商業部会	
サービス業部会	<ul style="list-style-type: none">・働き方改革や物価高騰の影響で各種製造業及び建設業からのスクラップ発生量が減少している。また、発生量の減少に伴い同業者間での荷物の取り合いとなり価格競争も激化している。併せて千葉県の金属スクラップヤード条例に対応するため今後大幅な設備投資を迫られる可能性がでており採算性を考えると非常に厳しい状況。・仕入コストは上昇傾向であるが売上も上昇している分採算が取れている状況。またその他の経費も上昇しており経費削減は免れない。
金融業部会	

早期景気観測とは

地域の中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」（採用、設備投資、賃金動向等）を調査し、その結果を集計・公表するもの。QUICK SURVEY SYSTEM OF **LOCAL BUSINESS OUTLOOK** からLOBO調査などと呼ばれる。

調査の目的

企業を取り巻く経営環境や直面する課題等の現状を示すデータとして、経済対策に関する政策提言・要望活動などに活用すること。

調査の方法

調査依頼をメールにて一斉配信、Googleフォームのアンケートに対する回答入力による回収。

景況判断指数（DI値）とは、業況・売上・採算などの各項目についての判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。【景況判断指数 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)】

調査回答構成比

	商業 部会	工業 部会	建設 業部会	サービス業 部会	金融業 部会
部会員数 構成比	34.02%	7.06%	22.93%	32.80%	3.18%
回答数 構成比	33.33%	22.22%	11.11%	33.33%	0.00%

調査対象期間・回収期間

調査対象期間：令和6年7月～9月（3ヶ月間）

回収期間：令和6年10月1日～10月31日（Googleフォーム）